

『グループホーム日記』

社会福祉法人 光の里では、今金町内に3か所のグループホームを運営しています。
約40名の方々が今金町や近隣町の企業や福祉事業所等に通り、生活をされています。
週末は、旅行や買い物など皆さんそれぞれの趣味・時間を楽しんでいます、ここ3年ほどは新型コロナウイルス対策による制限が続いています。

写真は、ワークショップいまかねでの《原木しいたけ・製パン》の仕事が終わり、今金町市街地にあるケアホーム和(のどか)にて夕食の団らん風景です。感染対策の為、皆さん壁に向かって食事を取られています、家庭的な雰囲気を感じられます。

新任職員紹介

荒川 拓也

令和4年11月1日
ワークショップいまかね着任



岡林 聖悟

令和4年7月8日
ワークショップいまかね着任



離職期間を経て再びこちらでお世話になる事になり、大変感謝しております。また一から頑張りたいと思いますので宜しくお願い致します。

昨年7月8日より、ワークショップいまかねで働かせて頂いております岡林です。
一生懸命頑張りますのでどうぞ宜しくお願い致します。



ー夕食のひとコマー

＝ おくやみ ＝

加藤秋男さん 9月1日 57歳
心よりご冥福をお祈り申し上げます

～ 編集後記 ～

私達が広報『ひかりのさと』を作ってます

皆さんこんにちは。

今年度の広報『ひかりのさと』を担当している広報企画グループです。
グループは4名で構成され、企画⇒取材⇒原稿⇒構成などを分担しています。

さて、昨年はひかりの里においても新型コロナウイルスの陽性者が発生し、長期に渡る行動制限等の影響により多くの高齢利用者さんに体力の低下が見られ、「昨日まで出来た事が今日は出来ない…」ということを実感致しました。

コロナ禍で主だった行事がほぼほぼ中止となり、企画構成には苦労しますが、利用者さんの普段の生活の様子を皆さんにわかりやすくお届け出来ればと考え発行しています。

ひかりの里 生活支援員
(広報企画グループ)
高橋祐伎



(高橋) (高倉) (山内) (田村)



ひかりのさと

2023.1
vol.120



令和4年10月26日 ひかりの里ハロウィンイベントにて

～ 記事紹介 ～

- ・ 善意のご報告
- ・ クラスターを実感して
- ・ ワークショップ紹介
- ・ ハロウィン行事
- ・ レクリエーション日中活動
- ・ 記念写真
- ・ 新人紹介、編集後記

発行・編集
社会福祉法人 光の里
理事長 織田 巖

瀬棚郡今金町字神丘912-11
TEL 0137-82-0705

メールアドレス:
hikarinosato@star.ocn.ne.jp
ホームページ:
<http://imakane-hikarinosato.com/>

QRコードはこちらから



「善意に心から感謝申し上げます」

社会福祉法人光の里 理事長 織田 巖

新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、輝かしい新春を健やかに迎えのことと心からお慶び申し上げます。

さて、コロナ禍の中、これまで何とか感染から免れてきましたが、昨年は当法人の施設・事務所においても、新型コロナウイルス感染症に振り回された一年となりました。

本年もより一層の感染防止対策に努めながら、役職員一丸となり利用者支援に向けて誠実に努力を続けてまいりますので、皆様のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、4年前の7月、柴谷前理事長の奥様 澄子様より、今金町の土地と自宅建物を当法人に寄贈したい旨のお話をいただきました。そして、今年の7月15日、澄子様の成年後見人吉田玲英弁護士さんが来町され、正式に土地・建物をご寄贈いただきました。これは、光の里と地域の障がい者福祉の発展を願うご本人の強い意思を尊重されてのこととお聞きいたしました。

ご寄贈いただいた土地・建物につきましては、障がいのある方の地域生活に向けた自立訓練や地域の子どもたちの活動の場等々、地域貢献活動を中心に有効に活用させていただきたいと考えております。

現在は、札幌市にお住いの澄子様の善意に心から感謝申し上げます。



手をつなぐ育成会(旧手をつなぐ親の会)の活動に改めて敬意を表します

障がい者支援施設 ひかりの里 施設長 戸室 孝俊

新年あけましておめでとうございます。

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

さて、去る、令和4年3月末日を持って閉会された「今金町手をつなぐ育成会」様より、この度社会福祉法人光の里へ「閉会時積立金924,060円」のご寄付をいただくこととなりました。

今金町手をつなぐ育成会は、昭和43年「手をつなぐ親の会」として発足し、檜山管内に初の精神薄弱者施設の建設誘致運動が始まりました。

昭和47年に「光の里」設置計画を立上げ、昭和49年の精神薄弱者更生施設「光の里学園」開設の母体となったのは言うまでもありません。その後、平成9年に開校した「北海道立今金高等養護学校」の誘致運動など、今金町はもちろん檜山地方の社会福祉の向上に大きく寄与してきたところです。

会の発足から53年もの長きにわたり、地域福祉に多大なる貢献をされた事に改めて感謝し、敬意を表します。

昭和44年 広報「いまかね」第133号より

昭和47年 広報「いまかね」第171号より



新型コロナ、クラスター(令和4年9月9日~10月8日)を体感して思うこと・・・

クラスター対応を体験して感じたこと

ひかりの里 生活支援課 係長 高倉 匠平

私は1階ユニット対応をする事になって、ユニット内での支援について取り仕切る立場にいました。

他の支援者と相談をしながら支援方法について決めていく過程で、今まで通りに利用者さんに関わる事で感染を広げてしまうリスクを考えながら、支援の質と量をどのように担保していくのかを常に悩みながら手探り状態で支援をしていました。

そんな状況の中で、利用者さんにとっても新型コロナの感染は初めての経験であり、クラスター収束までの約1ヶ月間は大きな不安を感じながらの生活だったと思います。しかし、この間、支援を行う私たちの力となったのは、利用者さんからの協力であり、支援員仲間の存在でした。これらに勇気をいただきながら、日々の支援を継続することが出来たと思っています。

最終的には、1階ユニットからは2名の感染者が出てしまいましたが、後遺症もなく元気に過ごす事が出来ています。

まだまだ全国的にも収束する兆しが見えない中、コロナ禍前の状態に戻るには今しばらく時間を要すると思いますが、利用者さん及び保護者の皆様にご協力いただきながら、安心して生活を送れるように感染対策を徹底して事業所には持ち込まないように努めています。

レッドゾーンに勤務して・・・

ひかりの里 生活支援課 支援員 大東 健吾

当時、私は2階男性ユニットの勤務に入っていました。

出勤前に新型コロナ陽性者発生の連絡が入り、あんなに感染防止対策していたのに、とうとううちの施設にも来てしまったか！それが最初に思ったことでした。

施設内は既にゾーニングされており、いつもとは違う緊張が張り詰めていました。感染を拡大させぬよう防護ガウン、フェイスシールド、N95マスク、キャップを着用、プラスチックグローブを二重にし、レッドゾーンへ入って行きました。最初は1人だけの陽性者だったのが日増しに増加、更には職員からも陽性者が発生してしまいました。一度入ると、食事や排泄介助、清掃、消毒作業などで2時間は出てこれないレッドゾーン。全てを終えるころには着ていたシャツは全て濡れ、ガウンを脱ぐと汗が流れ落ちてくる、そのような状況下で体力やメンタルもボロボロになりそうになりながらも、これ以上感染を拡大させてはならない！という思いで支援していきました。最終的に2階男性ユニット利用者さんは、8名の陽性者が出てしまいました。発熱や咳症状、行動制限によるADL(日常生活動作能力)の低下などがありましたが、重症化することなく早期収束したことや今現在、後遺症もなく過ごされていること、私たちより大変な状況下でよく耐えてくれたことに感謝しています。

今後も見えない敵と戦うべく更なる感染防止対策を講じ、利用者さんが安心・安全で過ごすことが出来るように努めて参ります。

GO!GO! みんなでレクリエーション!!

2022年7月21日、「ひかりの里夏のレクリエーション」が行われました。

今回はコロナ禍のため、会場を2ヶ所に分けて、室内ゲームを中心にボーリング・座布団取りゲーム・フライングディスクの3種目を用意し、利用者さんにはそれぞれ自分好みの種目を選んでいただきました。そして、ゲームがスタートすると皆さん満面の笑顔で、時には真剣な表情になったりと楽しそうに参加されていました。また、ゲームが終わってからは、スコアを集計して1位～3位の利用者さんに理事長・施設長から賞状が授与されて大喜びでした。

レク終了後は皆さんが楽しみにしていた昼食です。美味しそうな特製弁当に舌鼓を打ち、また、3時のおやつにはジュースと焼きたてのたい焼が提供されて大好評でした。

ひかりの里生活支援員

(行事企画グループ)

山崎 龍二



祝！成人

小田桐 凱さん

令和3年3月30日、ひかりの里に入所しました。
スーツが様になって来る年齢になりました。



祝！還暦



小川 容子さん



中村 卓司さん



祝！古希

浅倉 好子さん



橋本 正満さん

70歳の
長寿祝い



日中活動再開で笑顔！

コロナ禍の令和4年9月、クラスターによる長い行動制限の期間中、利用者さんには感染を拡大させないために出来るだけ居室内での生活をお願いしました。そのため、日常生活は普段通りとはいかず、また日中活動も行うことは出来ませんでした。当然、職員や他の利用者さんに関わる機会も減ってしまい、皆さんの表情から笑顔が少なくなっていました。

そして、クラスター終息まで約1ヶ月、やっと普通の生活に戻る事ができました。日中活動も再開し、創作活動では新しいパズルを取り入れたり、天気の良い日には景色を見ながら外の空気に触れて散歩を楽しみ、また、ストレス解消と気分転換に町内や近隣へのドライブに出かけることもあり、利用者さんの表情に笑顔が増えてきたように感じています。

こんな状況の中、10月末に開催される町の総合文化祭に向けて大型キャブアートを作成し展示を予定しておりましたが、残念ながら今年度は叶いませんでした。来年度の楽しみにしていただけたいと思います。



ひかりの里生活支援員
(日中活動班)

宮田 幸稀

8月キャブアート

